

Use Your Guide Today ! (side A)

#2 | March 22, 2018

Ice-breaker : FOMCはバランスをうまく取って市場を動揺させず。

Q1. 昨日のFOMC(米連邦公開市場委員会)で知っておくべきことは?

A1. ひとことで: 金融市場に対して景気の過熱も冷え込みも想起させないようなバランスの取れた意思表示。

- 【くわしく】 今年の利上げ回数見通しを「3回」で維持した一方、来年については「2回」から「3回」に引き上げました。また、今年と来年の経済成長率見通しを上方修正すると共に、物価(インフレ率)の見通しも来年と再来年を上方修正しました。実質GDP成長率*: 今年2.5→2.7%、来年2.1→2.4%。*見通しの中央値。
- 【どう解釈?】 金融市場に①利上げ回数が少ないと読み取られれば、インフレ懸念が台頭して長期金利の上昇につながる恐れがあります。反対に②利上げ回数が多いと読み取られれば、景気の腰折れ懸念が台頭して株価の下落につながる恐れがあります。「今年の利上げ回数見通しを維持しつつ、来年分を増やした」ことは、両者のバランスを取る意味で良好な判断であったと見ています。今後、a)今はまだ顕在化していない減税の効果や、b)追加的な財政出動(インフラ投資など)、あるいはc)保護主義(輸入関税引き上げなど)が出てくれば、景気の過熱やインフレの懸念が生じますが、その場合には、利上げを積極的に実施することも可能で、FRB(米連邦準備制度理事会)は、自らの政策を自ら縛ることなく、フリー・ハンドを保有している状態と考えられます。

Q2. とはいえ、昨晚の米国株式は若干下落をしたが、大丈夫か?

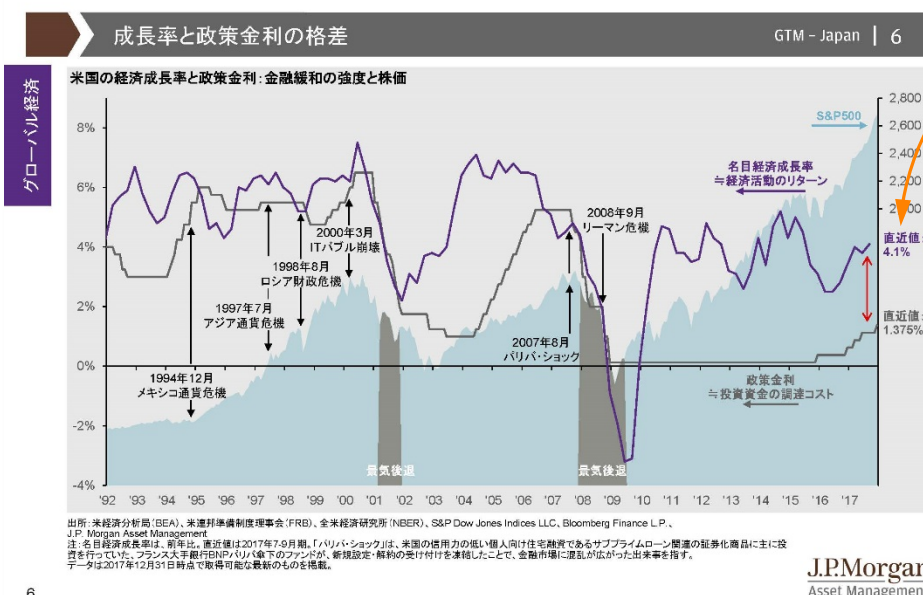
A2. 問題ないと考える。反応は小さく、市場が「利上げが少なすぎるとも、多すぎるとも解釈した様子はない。

Q3. 世界の株式市場は目先、どうなりそう? 資産運用のアドバイスは?

A3. 方向感がなさそう。米国で景気の過熱が見られないのはプラスだが、貿易・通商問題が依然、重し。

- 米国の景気過熱は、過去に金融引き締め加速と景気の失速を招いているため要注意ですが、幾分後ずれしているようです。それは、引き締めも後ずれさせるため、当面の株価にとってプラスでしょう。ただし、米国の保護主義的な姿勢は、世界経済の見通しに対する不透明感から、しばらくの間、マーケットの変動性を高める要因であり続けるでしょう。当面、株式を含む幅広い資産で、徹底した分散投資を行うことをお勧めします。

参考図表: Guide to the Markets 2018年1-3月期版6ページ



米国経済は、当初の見通しに比べ、「熱し過ぎず、冷めすぎず」の経済状況が続いています。

言い換えれば、減税の効果に伴う景気の過熱は幾分、後ずれしているように見えます。

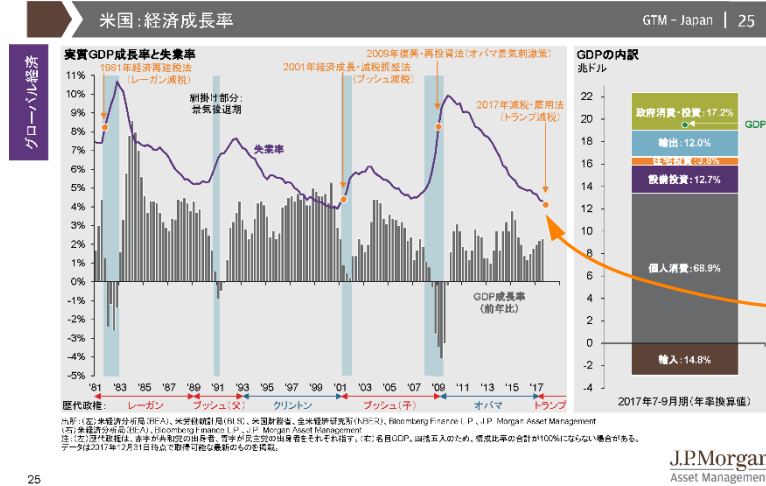
これは、利上げの加速を招かないという意味で、目先の株価にとってはプラスと見られます。

Use Your Guide Today ! (side B)

#2 | March 22, 2018

Closing: 分散投資、ディフェンシブ、アクティブ

参考図表: Guide to the Markets 2018年1-3月期版25ページ



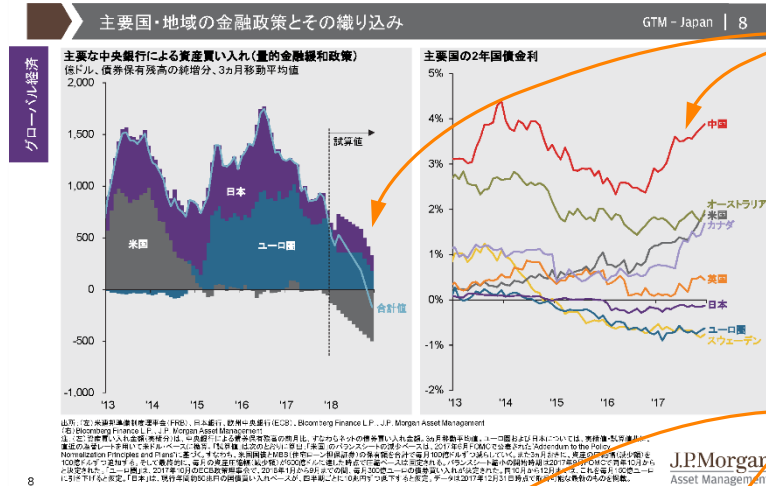
Q1. 今年はどうな見通し?

「去年ほど楽ではない。分散しておきましょう」

1. 景気は年前半は良いが、後半は鈍化と見込む。
2. 年前半は金利上昇で債券・REITが不利、後半は景気鈍化で株式(ITなどの景気敏感株式)が不利と見る。⇒ 分散投資が重要。

世界は『同時好景気』に沸いており、しかも米国は完全雇用にも関わらず、(通常は景気後退時に行われるはずの)減税による景気刺激を行っています。また、インフラ投資も検討しており、これも同様です。完全雇用で、景気を刺激すれば、『経済の体温計』であるインフレ率が上がり、長期金利が上昇したり、利上げが実施されたりすることが予想されます。

参考図表: Guide to the Markets 2018年1-3月期版8ページ



実際、世界の主要中央銀行も『同時好景気』を実感し、物価の上昇圧力を感じ取る中で、利上げを模索したり、「非常時対応」として実施されてきた量的金融緩和を取り下げたりする方向です。これらは、引き締め圧力として、实体经济を「過熱」の局面から、「鈍化」の局面にゆっくりと変化させていくと考えられます。

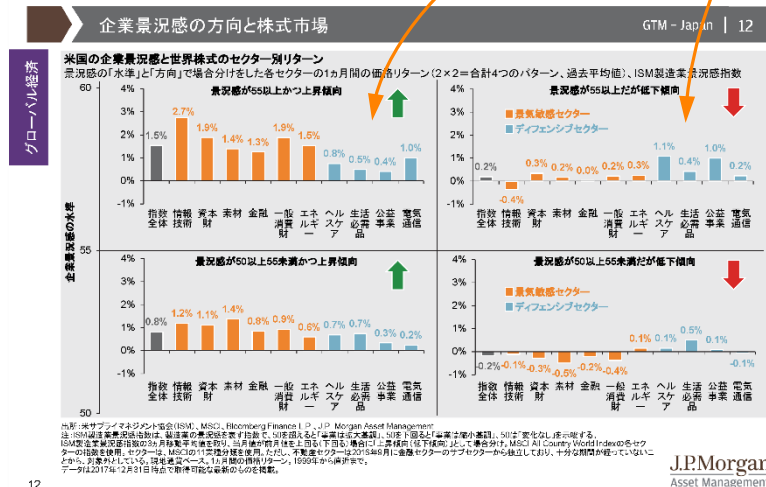
過去のデータに基づけば、景気が「過熱」から「鈍化」に向かうと、株価は上がりにくくなります。また、セクター(業種)別に見ると、ITなどの景気敏感株式が上がらなくなったり、場合によっては下落したりする傾向にあります。

Q2. どんな投資スタイルが望ましい?

「分散投資に加え、ディフェンシブ、アクティブがキーワードです」

- **ディフェンシブ**: 景気が過熱から鈍化に向かえば、株式などのリスク資産価格は上がりにくくなる。⇒ 「値上がり益」には頼りにくく、高配当株式や債券、REITなどの「守り中心」のインカム系資産での分散を検討できる。
- **アクティブ**: 景気が過熱から鈍化に向かうタイミングを読み取って、例えば、多資産組み入れ型ファンドなら株式から債券に、株式単体ファンドなら国やセクター、銘柄を積極的に入れ替えるなどのアクティブ・ファンドを検討できる。

参考図表: Guide to the Markets 2018年1-3月期版12ページ



Market Insightsプログラムは、グローバルな金融市場の幅広いデータや解説を、特定の金融商品に言及することなく提供するものです。お客さまの市場に対する理解と投資判断をサポートします。本プログラムは現在の市場データから投資のヒントや環境の変化を読み解きます。

本資料はJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が作成したものです。本資料に記載の見通しは投資の助言や推奨を目的とするものではありません。また、J.P.モルガン・アセット・マネジメントあるいはそのグループ会社において記載の取引を約束するものでもありません。予測、数値、意見、投資手法や戦略は情報提供を目的として記載されたものであり、一定の前提や作成時点の市場環境を基準としており、予告なく変更されることがあります。記載の情報は作成時点で正確と判断されるものを使用していますが、その正確性を保証するものではありません。本資料では、お客さまの投資判断に十分な情報を提供しておらず、証券や金融商品への投資のメリットをお客さまが自身で評価するにあたって使用するものではありません。また、かかる法務、規制、税務、信用、会計に関しては、個別に評価し、投資にあたっては、投資の目的に適合するかどうかに関しては専門家の助言とともに判断してください。投資判断の際には必要な情報をすべて事前に入手してください。投資にはリスクが伴います。投資資産の価値および得られるインカム収入は市場環境や税制により上下するため、投資元本が確保されるものではありません。過去のパフォーマンスおよび利回りは将来の成果を示唆・保証するものではありません。

【ご留意事項】 お客さまの投資判断において重要な情報ですので必ずお読みください。

投資信託は一般的に、株式、債券等様々な有価証券へ投資します。有価証券は市場環境、有価証券の発行会社の業績、財務状況等により価格が変動するため、投資信託の基準価額も変動し、損失を被ることがあります。また、外貨建の資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。そのため、投資信託は元本が保証されているものではありません。

◆ご注意していただきたい事項について

- 投資信託によっては、海外の証券取引所の休業日等に、購入、換金の申込の受付を行わない場合があります。
- 投資信託によっては、クローズド期間として、原則として換金が行えない期間が設けられていることや、1回の換金(解約)金額に制限が設けられている場合があります。
- 分配金の額は、投資信託の運用状況等により委託会社が決定するものであり、将来分配金の額が減額されることや、分配金が支払われないことがあります。

◆ファンドの諸費用について

投資信託では、一般的に以下のような手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託の購入時: 購入時手数料(上限3.78%(税抜3.5%))、信託財産留保額

投資信託の換金時: 換金(解約)手数料、信託財産留保額(上限0.5%)

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)(上限年率2.052%(税抜1.9%))

*費用の料率につきましては、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての公募投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しています。その他、有価証券の取引等にかかる費用、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税等の実費(または一部みなし額)および監査費用のみなし額がかかります(投資先ファンドを含みます)。また、一定の条件のもと目論見書の印刷に要する費用の実費相当額またはみなし額がかかります。

J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。本資料は、以下のグループ会社により発行されたものです

- ブラジル: バンコ・J.P.モルガンS.A. (ブラジル)
- 英国: JPモルガン・アセット・マネジメント(UK) リミテッド
- 英国以外のEU諸国: JPモルガン・アセット・マネジメント(ヨーロッパ) Sàrl.
- スイス: J.P.モルガン(スイス) SA
- 香港: JFアセット・マネジメント・リミテッド、JPモルガン・ファンズ(アジア) リミテッド、JPモルガン・アセット・マネジメント・リアル・アセット(アジア) リミテッド
- インド: JPモルガン・アセット・マネジメント・インド・プライベート・リミテッド
- シンガポール: JPモルガン・アセット・マネジメント(シンガポール) リミテッド(Co. Reg. No. 197601586K)、JPモルガン・アセット・マネジメント・リアル・アセット(シンガポール) プライベート・リミテッド(Co. Reg. No. 201120355E)
- 台湾: JPモルガン・アセット・マネジメント(台湾) リミテッド、JPモルガン・ファンズ(台湾) リミテッド
- 日本: JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第330号 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会)
- 韓国: JPモルガン・アセット・マネジメント(韓国) カンパニー・リミテッド
- オーストラリア: JPモルガン・アセット・マネジメント(オーストラリア) リミテッド(ABN 55143832080)(AFSL 376919)(Corporation Act 2001 (Cth) 第761A条および第761G条で定義される販売会社に配布が限定されます)
- カナダ(機関投資家限定): J.P.モルガン・アセット・マネジメント(カナダ) インク
- 米国: JPモルガン・ディストリビューション・サービスズ・インク(FINRA/SIPC会員)、J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク

本資料は、アジア太平洋地域において、香港、台湾、日本およびシンガポールで配布されます。アジア太平洋地域の他の国では、受取人の使用に限りです。

Copyright 2018 JPMorgan Chase & Co. All rights reserved

Material ID: 0903c02a820ca5fb